

# 日本株を見直そう（その2）

## ～長期投資が報われる市場に～

### ポイント① 57年間で利益42倍、株価43倍

1960年以降の米国株式市場（S&P500株価指数）を振り返りますと、株価は企業業績の成長に沿う形で上昇してきたことがわかります。S&P500ベースのEPS（1株当たり利益）を15倍して株価指数に重ね合わせると、図1にあるようにきれいに重なります。この間の57年間で、EPS（企業業績）は約42倍に成長し、株価は約43倍（共に年率+6.8%程度）に上昇しました。こうした素晴らしい結果が、「株価は企業業績の鏡である」と言われる所以です。

### ポイント② 株式への長期投資は報われる

上記の57年間で「10年間の投資」として詳しく見たものが図2です。グラフの左端は1960年1月末に投資した場合の株価リターンを表しています。ご覧のように、ほとんどの時期において利益が出ていることがわかります。「株式への長期投資は報われる」と言われますが、こんな事実のことを指しています。

ちなみに、最も儲かった10年が1990年8月末～2000年8月末の+371%、一方、最も損した10年が1999年2月末～2009年2月末の▲41%です。損した期間は全体の約1割で、この期間だけは報われませんでした。全体の約9割の期間は利益が出て報われていますし、実際は配当が加わるので、全体の損失は小さくなったはずで

### ポイント③ 本来の姿に生まれ変わる日本株

では、日本株式市場はどうかというと、米国株とは様相が異なります（図3）。日経平均株価とEPS（企業業績）を同じく15倍したものを同じグラフに載せると、2003年頃までは株価とEPSがかい離していたことがわかります。この期間は「株価は企業業績の鏡」ではなく、利益とほとんど関係なく動いていたと考えています。しかし、2003年以降は徐々に重なり始め、2012年頃からは米国株のようにきれいに連動するようになりました。この背景には企業業績が改善し、加えて株価も適正水準を保てるようになったことなどがあります。

日本株は、企業経営の改善が安定的な利益成長をもたらし、株式市場本来の姿に生まれ変わろうとしています。これまでは「長期投資が報われない」市場でしたが、今後は「長期投資が報われる」市場になっていくと考えています。

次回に続きます。

図1：米国株式市場の変遷

期間：1960年1月～2017年12月、月次

※S&P500は2017年5月末まで

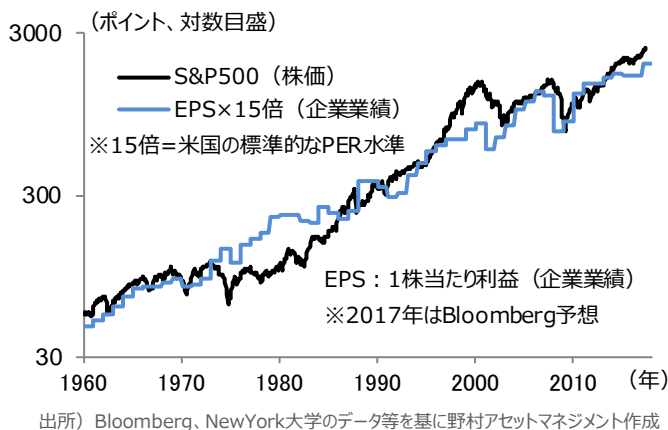


図2：株式への長期投資の結果

期間：1960年1月末～2017年5月末、月次

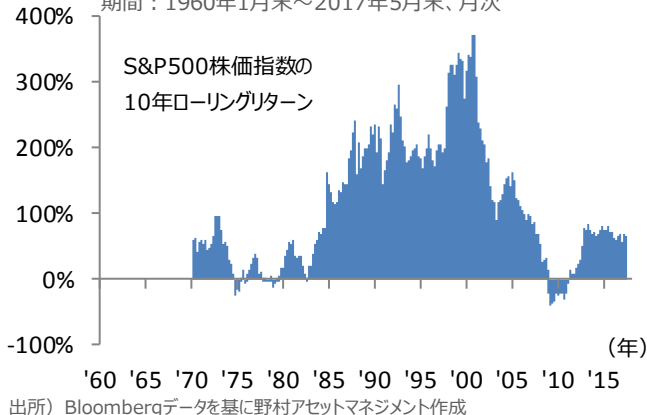


図3：日本株式市場の変遷

期間：1980年1月～2019年3月、月次

※日経平均株価は2017年5月末まで



当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示さない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。